

# 06年サケ・マス

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

年	漁獲(生産)加工				輸入 生冷	輸出 生冷	消費地			消費支出		月末 在庫	日露 協定	アキ サケ	北海道	
	サケ	マス	養ギン	塩蔵			生	冷	塩蔵	生(千円)	塩(千円)				道	州
17	229	17	13.0	106.5	224.9	66.0	24.5	57.9	44.6	3,061	1,786	108.5	7.1	222.9	183.3	40
18	219	12	12.0		202.4	66.5	22.0	65.4	43.6	2,944	1,699	115.0	8.7	211.3	171.9	39
%	96	71	92	0	90	101	90	113	98	96	95	106	123	95	94	100

年	秋 サケ	北海 道	本 州	輸 入	輸 出	消費地			消費支出	
						生	冷	塩蔵	生(円)	塩(円)
17	259	260	254	482	223	663	558	675	3,823	2,166
18	348	347	350	526	267	793	603	742	3,979	2,215
%	134	133	138	109	120	120	108	110	104	102

## 漁獲量

18年の北洋サケマス漁業は、ロシア200海里枠が中型船3,450トン（前年3,611トン）、小型船5,220トン（前年3,510トン）で中型船やや減少、小型船引続き増加となった。入漁料は中型・小型とも292.5円/kgで前年並みであった。また、漁況はベニ・トキが増加、マスが減少であった。またオホーツク建マスは半減した。

日本200海里枠3,340トンで前年（カラフトマス主体3,560トン）を若干下回った。

秋サケ沿岸漁獲量は、北海道4,994万尾（前年5,257万尾）、本州1,232万尾（前年1,195万尾）、トン数では北海道17.1万トン（前年18.3万トン）、本州3.94万トン（前年3.95万トン）であった。

北海道では前年を引続き下回ったものの水準としては本年度も高く4年続きの豊漁で、本州ではほぼ前年並みであった。

価格は、北海道、本州とも対アジア輸出が引続き好調だったこともあり、周年を通じて、昨対比3割アップの堅調相場が続いた。

魚体は、北海道3.44kg（前年3.49kg）、本州3.29kg（前年3.31kg）で、今年は北海道、本州とも前年をやや下回った。

国内養殖銀ザケは、1.2万トン（前年1.3万トン）であった。

## 輸出入

18年のサケマス輸入量は、20.2万トンで前年（22.5万トン）をやや下回った。

本年は天然物、養殖物ともに減少したことを反映したものである。

天然物の国別輸入量は（全てのサケマス類）、米国1.9万トン（前年3.2万トン）、カナダ0.6万トン（前年0.7万トン）、ロシア3万トン（前年3.2万トン）で何れも前年を下回った。

また、1999年初めて米国をぬいてトップにたったチリを始めノルウェー等各国からの養殖系サケ、は世界的に生産も伸びている事情は変わらないが、本年は特にEU、米国、中国等の需要も伸びているため、日本からの輸出も多くなり、中国を経由してEUといったルートも開発されている模様。本年の国別輸入量はチリ11.4万トンで前年並みの11.2万トンであったが、ノルウェーはEU需要の伸びもあり2.4万トンで、前年（3.3万トン）を引続き下回った。またニュージーランド、デンマーク、オーストラリア等からの輸入は引続きみられている。

輸入価格は、526円で本年は世界的な旺盛なサケ需要の結果を受けて前年（482円）を上回った。

また、近年まとまった輸出がみられていたアキサケは本年も順調で、国内漁が好漁であった上に中国での買入価格の更なる上昇もあって、6.6万トンと前年(6.6万トン)並みであった。

輸出先は、依然中国5.8万トン(前年約5.7万トン)で本年も90%近くで圧倒的にシェアは高かった。続いてタイ5,227トン、韓国749トン、台湾671トン、ベトナム16トンであった。

また輸出価格は、特に中国需要が強かったことで買値の上昇もあって、前年(223円/kg)を上回る267円/kgであった。しかし、価格の上昇も急激であったこともあり、これ以上の上昇には懸念する向きも出てきている。

## 総供給量

本年は沖獲量のみが増加したものの、輸入量、国内秋サケ漁とも前年をやや下回ったことで、期首在庫が多かったものの、総供給量は、前年をやや下回る51万トンとなった。

	17年	18年	対比(%)
総供給量	535,800	510,700	95
沖獲漁獲量	13,600	15,600	115
秋サケ漁獲量	222,900	211,300	95
建マス漁獲量	12,000	6,700	56
ギンサケ漁獲量	13,000	12,000	92
輸入量	224,900	202,400	90
期首在庫量	115,400	129,200	112
輸出	66,000	66,500	101

## 消費地入荷量と価格

サケの消費地入荷量は、生2.2万トン(前年2.5万トン)、冷6.5万トン(前年5.8万トン)、塩4.4万トン(前年4.5万トン)であった。

本年の入荷の特徴は、生鮮がやや減少したものの、冷凍原料はチリ銀主体の輸入養殖物が好調を維持したこともあり多かった。

平成年代に入って順調に伸び定着してきた生秋サケは、切り身、生フィレーでの旬の販売がすっかり全国的に浸透し、本年も前年をやや下回った。しかし家計支出でみると生、塩とも数量的にはやや減少しているが、単価高もあり金額ベースでは伸びた。

価格は、生793円(前年663円)、冷603円(前年558円)、塩742円(前年675円)となった。

本年は産地では秋サケの高値、グローバル化しているサケ類の状況下での輸入系サケの高値もあって、消費地市場でも生鮮、冷凍、塩蔵とも、何れも昨年に続きやや強含み推移であった。